

平成 29 年度第 1 回高知県新エネルギー導入促進協議会 議事概要

【日 時】 平成 29 年 6 月 5 日（月） 10:00～11:30

【場 所】 高知共済会館 3 階 藤の間

【出席者】 <委員> 八田章光 会長、井戸浩道 委員、尾崎豊藏 委員、林須賀 委員、
三本和光 委員、横田日出子 委員

<事務局>（林業振興・環境部）森下信夫 副部長

（新エネルギー推進課）山下修 課長、河野和弘 課長補佐

原貴 チーフ（新エネルギー担当）

上田耕平 主幹

（木材産業振興課）山内潤子 チーフ（利用促進担当）

【欠 席】 <委員> 中澤純治 副会長、井戸啓彰 委員、川島徹也 委員、山崎行雄 委員

1 議 題

（1）平成 28 年度の取組実績及び平成 29 年度の取組予定について

（2）その他

- ・小形風力発電事業化促進事業費補助金について
- ・改正 FIT 法の施行に伴う認定失効について

2 会議要旨

【平成 28 年度の取組実績及び平成 29 年度の取組予定について】

（事務局より資料 1-1、1-2、2、3 に基づいて説明）

<質疑等>

（委員）

- ・木質バイオマス発電設備の稼働率について稼働率が 90%ということだが、100%にならないのか。100%にならないのはなぜか。

（事務局）

- ・法で定められた点検及び施設の定期補修をするため、年間 1 カ月程度施設を停止するため 90%程度でも高い稼働率という判断。

（委員）

- ・太陽光発電施設の設置・運営等に関するガイドラインの改定について現状はどうか。またいつごろ改定するか。

（事務局）

- ・ガイドラインはあくまで事業者の自主的な取り組みをお願いしているもので、昨年 1 月に策定して 1 年余り運用を行ってきたが、いろいろな事例に接する中で見えてきた課題に対応して検討を行っている。例としては、

- ① 事業地から河川へ排水がある場合は、流域の周辺市町村にも影響があることが分かったため、周辺市町村にも事業概要書を届け出ていただく
- ② がけ崩れが起きやすいなど防災面でリスクの高いエリアはなるべく事業計画の段階で避けていただく
- ③ 4月以降のFIT法の改正に合わせた関連事項
改定ガイドラインは夏くらいまでに運用を開始したい。

(委員)

- ・高知県にとって森林はエネルギーの面以外でもいろいろな面で生活に関係してくる。持続可能な森林づくりのために苗木の生産体制の強化など、長期的にみてどのような森を作っていくのか。

(事務局)

- ・高知県の山は木材として利用するために伐採する時期に来ている。森にも木にもいろいろな条件、様々な機能があり、環境に重点を置く面、木材として利用する面がある。木材利用したほうがよいところに関しては、間伐や皆伐をおこなっていくが、皆伐を行うところが増えると植えなおす苗が多く必要になる。一方で生産者の高齢化による生産への影響が考えられるが、高齢化にも対応したコンテナ苗を開発する取り組みがされている。

(委員)

- ・質問の意図の中には今回答にあった従来型のスギ・ヒノキを生産する持続可能な森林以外に、一部自然林に戻していく活動もあるかと思うがどうか。

(事務局)

- ・森林の整備については、それぞれエリアを区切っており、経済林として木材生産を重視した森と、長期的に公益的機能を発揮するための広葉樹と針葉樹が両方成り立つように整備していく森が両方ある。生産に適した所は、経済林として整備していくことが環境の保全にもつながるといのが森の性格なのでバランスを取りながらプランニングしていく。

(委員)

- ・新エネルギービジョンのバイオマスの課題には県内自給率の向上があるが、把握している利用量のうちどれぐらい県内で生産したかが指標として必要だと思う。次回から可能であれば県内自給率に相当する数値をお願いする。

(委員)

- ・持続可能な森林について、先日間伐業者に聞いたのだが、バイオマス発電に使用するために伐採した後、植林されていないところがあるという話だった。ほかにも山の反対側の見えないところが伐採後、植林されていないという話を聞いた。50年後の山を心配し

ている。

(委員)

- ・木質バイオマス発電に対して、県民は燃料として木が全部切られて山がそのままなのではないかと心配に思っているのではないかと。研究されている方はそんなことはないと言うが、現場は本当にそうなっているのか、我々は木質バイオマス発電は森林を保全しながらできていますと答えられなければならない。
- ・うまくいっていることをアピールして県民の理解を得ていかないと、新しくバイオマス発電所を作ることはできないので、情報提供をお願いします。

(事務局)

- ・確認して返答させていただく。

(委員)

- ・高知県の中でも再生可能エネルギーが進んでいる都市を1つ選んで、モデル都市として1つの街をスマートタウンにできないか。再生可能エネルギーで一番進んでいる梶原町の背中を押すのが一番早く、押す力が強いのは県だと思っている。目標を定め、期限を切って急いでやってもらいたい、県はどう思っているのか。

(事務局)

- ・梶原町自体が環境モデル都市を目指して計画も作って取り組んできた。風力発電に関しては全国的にも大きな課題である連系の問題が生じ、縮小した計画になっている。この系統連系の問題については、自力で電力線を引くことは莫大な費用が必要となり現実的ではないため、引き続き国に対して再生可能エネルギーを進めていくにはこうした障害を除いていただく必要があるということ、後押しという意味でも県として政策提言を行っていく。一方で大きな課題がある中で何ができるかということで出力は小さくなるが、地産地消という観点で自家消費の方法を考えていくのも一つの方法。大きな課題が出てきて難しい状況で支援として何ができるのかを検討していく。

(委員)

- ・新エネルギービジョンの導入目標と導入状況について、長期目標に向けては厳しい。太陽光の中・大規模はこれまでの勢いで導入が進むことは難しいが、そうなると中期目標も厳しくなってきたように感じるが、今わかっている範囲で見込みがあるか。

(事務局)

- ・新エネルギービジョンを策定した時にこの目標設定の仕方や根拠についても委員の皆様で議論いただいた。
- ・太陽光の中・大規模の中期目標に関しては、四国電力への契約済みと接続申し込み済みを基に作成しているので大きなずれはないと考えている。ただし、10年後の長期目標は連系問題などが解消する条件をつけているので厳しいのではないかとと思っている。
- ・小規模太陽光については、温暖化対策の面で ZEH などを後押ししているため今後伸びて

いく可能性がある。

- ・小水力は少しづつでも推進していく。
- ・風力は大豊町と大月町の大型風力がもうすぐ稼働するので一定導入は進む見込み。
- ・中期目標に対し、個別には目標を切るものもあるかもしれないが、概ね大きなずれはないと考えている。

(委員)

- ・先のことを考えると、木質バイオマスでもう一か所できれば県東部でやってもらいたい。東部は森林資源も豊富なので、難しいとは思いますが、今の時点でアクションを起こしていないと長期目標に届かない。

(事務局)

- ・今後進捗状況を見ながら対応を考えていく。

(委員)

- ・新エネルギービジョンの導入目標と導入状況で確認できなかったが、小規模太陽光発電の普及率を指標にするとしていたはずなので出すように。

【その他 小形風力発電事業化促進事業費補助金について】

(事務局より資料4に基づいて説明)

<質疑等>

(委員)

- ・予算は300万円となっているが、一件あたりの補助金額はいくらか。
- ・当補助金に応募しそうな事業者の想定はあるか、第2次募集では応募がありそうか。

(事務局)

- ・一般的な風況調査等にかかる費用を調査したところ、200万円位かかると聞いており、200万円の1/2補助で100万円。それを3件で300万円と積算した。
- ・今後、応募にあたり、要件などで課題となることがあれば、解決方法を検討していく。

(委員)

- ・小形風力発電事業についてもメガソーラーのように県外の事業者が土地だけを借りて高知の風で収益をあげることを危惧している。当補助金は高知県内の事業者に積極的に参加してもらうために重要と考えており、自己負担もあり簡単ではないが県も是非、県内事業者を後押ししてほしい。

【その他 改正FIT法の施行に伴う認定失効について】

(事務局より資料5に基づいて説明)

<質疑等>

(委員)

- ・資料で失効前の四国の FIT 認定容量が 380 万キロワットとなっているが、四国電力の発電量はどれくらいか。

(委員)

- ・四国電力の過去最大電力実績（夏季需要）は 598.8 万キロワットであるが、昨年度実績では 534.7 万キロワットである。

(委員)

- ・容量的には再生可能エネルギーが連続で稼働すれば全部まかなえるように見えるくらいの認定にはなっているが、実際にはそんなことはできない。

(委員)

- ・再生可能エネルギーの導入状況からみると、今後は春先の連休など需要が少ない時期でかつ豊水になった場合、再生可能エネルギーの発電量が大きくなると出力制御が必要となる可能性も考えられる。早ければ来年の春には出力制御を行わないといけなところまで再生可能エネルギーが増えてきているのも事実である。

(委員)

- ・今までは主に送電網が課題となっていたが、新たに容量と出力抑制の問題もでてきている。

以上